

暗雲低く

(大正八年寮歌)

熊谷巖君 作歌

置塩奇君 作曲

一

暗雲低く乱れてし
怨嗟の声の収まるや
逆巻く波も和み来て
星影淡き東雲に
平和の光朗々と
碧緑の海に輝きぬ

二

さあれ意へば泰平が
やがて醸さん痴情の夢
人は安佚を偷むとも
我には固き自覚あり
人は驕奢に酔ひしるも
我には尚武の気魄あり

三

夢深かりし曙の
霞にまがふ蝦夷が野に
礎固く営みて
巍峨とそそれる自由の城
浮世の塵を低く睥睨
健児の意気を養はん

四

孤城に春の訪れて
榆樹の匂まだしくも
北斗の光燦として
崇き黙示を与ふらん
雪の色にもたぐふべき
潔き節操を思はずや

五

永遠に変わぬ希望もて
理想の華を咲かせんと
険しき世路に逆ひつつ
歩み運びし先進が
光榮の歴史を偲ぶれば
思出多き十四年

六

いざや勝利の盃を
平和の女神に捧げつつ
右手に正義の剣を執り
左手に自由の楯を持し
若き血潮の鳴るがまま
祝ひ謳わん記念祭